

## グローバルな資産運用体制の拡充

2016年に金融生態系を確立したSBIグループですが、その結果、生命保険や損害保険、銀行等のグループ各社の運用資産は急増し、その資産を効率的に運用するべく、当社グループは資産運用体制を拡充してきました。世界最大の米国債券運用会社であるピムコ社との合併会社であるSBI債券・インベストメント・マネジメントでは長期で安定したパフォーマンスを上げられるアクティブ債券ファンドを開発・提供しており、資産運用残高は2016年4月の開業後、順調に伸長し2019年3月末現在では6,000億円を超えるまでに拡大しています。また米国最古のファンドを立ち上げたフィリップ・キャレット氏が創設した資産運用会社Carret Asset Management社を2019年2月に子会社化するなど、海外有力運用企業との合併会社やM&Aなどを通じて体制を構築したことで、目標としていたグループ運用資産残高1兆円を突破しています。

日本と同様に欧米の先進国では高齢化・長寿化が進む中で、資産運用に対するニーズが高まっており、また中国をはじめ新興国においても中間所得層が増えることで資産運用のニーズが今後増えてくるものと思います。このようなことから、私は資産運用業こそが「金融業のラストフロンティア(未開拓市場)」だと考えており、これから大きく飛躍するものと思います。SBIグループの資産運用サービス事業は今後、モーニングスターに集約させることで体制の拡充を図り、3年以内にグループ運用資産残高5兆円を目指します。グローバルな投資家層を取り込むためにも、今後は米国に加えて欧州、香港、シンガポール等の有力な運用会社の買収も検討しています。

## 金融業のラストフロンティア である資産運用事業の強化

### 朝倉 智也

モーニングスター 代表取締役執行役員社長

Tomoya Asakura

## 地域金融機関の運用力強化に貢献

日本における地域金融機関の多くはマイナス金利政策の長期化等で運用難に直面しており、このような課題に対して、SBIグループの有する国内外における運用力、資産運用に関する豊富な知見やサービス等が役立つものと思います。そのため、2018年3月に地域金融機関の運用力の強化を目的に地域金融機関の各行が共同出資するSBI地方創生アセットマネジメントを設立しました。2019年3月時点で35行にご出資いただいております。出資いただいた地域金融機関に対して顧客の預り資産運用業務と自己資金運用の両面からサポートを行っています。

これらの支援に際しては、当社グループが有するネットワークを徹底的に活用していきます。一例としては、FX取引の流動性を供給するSBIリクイディティ・マーケットを活用した為替ヘッジコストを抑制する商品や、モーニングスターのグローバルデータベースを活用して開発した商品などを提供しております。SBIグループとしては地域金融機関の顧客の預り資産運用業務と自己資金運用のサポートが、地域金融機関の収益力の向上に貢献し、延いては地方創生につながるものと考えております。地域金融機関との共創により、新しい価値をともに生み出し、ともに成長していきたいと考えています。

